

I. はじめに

学校法人純真学園にとって、平成21年度は新旧交代を印象付ける年となりました。昭和42年、工学部の単科大学として開学した東和大学の最後の4年生が、今年3月に卒業いたしました。10数名の留年生が残りましたが、実質的には東和大学43年の歴史に幕を下ろした年となりました。留年生に対しては、最後の一人が卒業するまで責任を持って対応してまいります。

一方で、文部科学省より2年間の認可申請不受理の決定を受けておりましたが、今年度より新しい申請が可能となりました。数年来の大きな目標であった医療系大学の設置について理事会・評議員会で審議を重ね、今年3月に設置認可申請書類を文部科学省に提出し、受理されました。新しい第一歩を踏み出す直前まで漕ぎ着けたわけです。

また、設置している二つの短期大学において、短期大学基準協会の第三者評価を受け、両校とも無事適格判定をいただくことができました。これは、教職員が一丸となって、それぞれの短期大学の改善改革に取り組んできた結果であります。そして、これからが新しい第一歩となっていくわけであります。

純真高等学校においては、募集停止をしておりました看護専攻科の募集を再開いたしました。これは、教職員はもちろんのこと、近隣の中学校からの要望も強く、そのご期待に応えるためにも、授業や生徒指導にさらに注力していかなければなりません。

学校法人純真学園にとって、平成21年度は、新しい時代の幕を上げるための準備期間でもありました。無事に幕が上がり、たくさんの来場者を迎え入れることができるかどうかは、来年度の教職員一人一人のレベルアップと積極的な行動力にかかっています。

今一度初心に立ち返り、「気品」「知性」「奉仕」という学園訓のもと「時代の要望に即応し高い知性と豊かな情操とをもって社会・家庭に歓迎され敬愛される良識ある人材を訓育する」ため教職員が一丸となって取り組んでまいります。

Ⅱ. 法人の概要

1. 学園設立の目的

学校法人純真学園は、教育基本法及び学校教育法に従って学校教育を行い、人間及びその社会をよりよい方向に変革しうる人材の育成を目的とする。

2. 教育方針

学校法人純真学園は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を訓育するために、その教育方針として次の学園訓を掲げる。

「気 品」

「知 性」

「奉 仕」

3.法人の沿革

昭和 31 年 2 月 1 日	学校法人純真女子学園設立 純真女子高等学校設置
昭和 32 年 3 月 15 日	学校法人純真女子学園を学校法人福田学園に名称変更 純真女子短期大学を設置
昭和 41 年 2 月 4 日	福田学園中学校および純真女子短期大学附属幼稚園を設置
昭和 42 年 2 月 7 日	東亜共立大学を設置
昭和 42 年 7 月 4 日	東亜共立大学を東和大学に名称変更
昭和 43 年 7 月 4 日	純真女子高等学校を東和大学附属高等学校に名称変更 福田学園中学校を東和大学附属中学校に名称変更
昭和 48 年 4 月 4 日	東和大学附属高等学校を東和大学附属東和高等学校に名称変更
昭和 54 年 3 月 23 日	東和大学附属昌平高等学校を設置
昭和 58 年 2 月 4 日	埼玉純真女子短期大学を設置
平成 13 年 11 月 20 日	純真女子短期大学附属幼稚園を廃止
平成 14 年 4 月 1 日	東和大学附属東和高等学校 看護専攻科を設置
平成 15 年 6 月 11 日	純真女子短期大学 現代コミュニケーション学科設置
平成 15 年 6 月 19 日	東和大学 工学部 医療電子工学科 環境デザイン工学科 情報学科設置
平成 16 年 4 月 1 日	埼玉純真女子短期大学 英語学科を英語コミュニケーション学科に、児童教育 学科をこども学科に、また幼児教育学科第二部 を乳幼児保育学科第二部にそれぞれ名称変更
平成 17 年 12 月 5 日	純真女子短期大学 こども学科を設置
平成 18 年 2 月 3 日	純真女子短期大学 家政学科食物栄養専攻を食物栄養学科に名称変更
平成 18 年 4 月 19 日	東和大学附属中学校募集停止を決定
平成 18 年 7 月 24 日	東和大学工学部募集停止を決定
平成 18 年 10 月 12 日	東和大学附属東和高等学校看護専攻科募集停止を決定
平成 19 年 3 月 31 日	昌平高等学校設置者変更
平成 19 年 4 月 1 日	純真女子短期大学を純真短期大学に名称変更 埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学に名称変更 東和大学附属東和高等学校を純真高等学校に名称変更 東和大学附属中学校を純真中学校に名称変更
平成 20 年 3 月 31 日	埼玉純真短期大学 英語コミュニケーション学科を廃止
平成 21 年 3 月 31 日	純真短期大学 現代コミュニケーション学科を廃止
平成 22 年 3 月 31 日	純真短期大学 第三者評価適格認定 埼玉純真短期大学 第三者評価適格認定

4. 設置学校

入学定員・収容定員および学生・生徒数等

(平成21年5月1日現在)

設置する学校	学部学科	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数
東和大学	工学部				
	工業化学科	- 名	0 名	- 名	0 名
	電気工学科	- 名	0 名	- 名	0 名
	建設工学科	- 名	0 名	- 名	2 名
	経営工学科	- 名	0 名	- 名	0 名
	環境デザイン工学科	- 名	80 名	- 名	38 名
	情報学科	- 名	50 名	- 名	33 名
	医療電子工学科	- 名	30 名	- 名	14 名
	小計	0 名	160 名	0 名	87 名
純真短期大学	こども学科	100 名	200 名	55 名	107 名
	食物栄養学科	80 名	160 名	61 名	104 名
	小計	180 名	360 名	116 名	211 名
埼玉純真短期大学	こども学科	150 名	300 名	81 名	169 名
	乳幼児保育学科第二部	0 名	50 名	0 名	6 名
	小計	150 名	350 名	81 名	175 名
純真高等学校	全日制課程普通科	190 名	570 名	181 名	350 名
	看護科	40 名	120 名	11 名	35 名
	看護専攻科	0 名	80 名	0 名	63 名
	小計	230 名	770 名	192 名	448 名
純真中学校		0 名	0 名	0 名	0 名
	合計	560 名	1,640 名	389 名	921 名

5. 役員に関すること（平成21年5月1日現在）

① 理事（定数5～8名）

理事（現員6名）	理事長	福田庸之助
	理事	若菜啓孝
	理事	目瀬道弘
	理事	藤田利久
	理事	目野惣一
	理事	吉田寛

② 監事（定数2～3名）

監事（現員2名）	監事	小鮒成忠
	監事	早川勉

③ 評議員（定数11～17名）

評議員（現員13名）	評議員	福田庸之助	評議員	都築廣久
	評議員	若菜啓孝	評議員	萩尾土郎
	評議員	目瀬道弘	評議員	石川節夫
	評議員	藤田利久	評議員	池田博文
	評議員	目野惣一	評議員	池田賢治
	評議員	吉田寛	評議員	野中俊雄
	評議員	吉田忠幸		

6. 教職員数等に関すること（平成21年5月1日現在）

教育職員数

（単位：人）

所 属	専任教員	特任教員	常勤講師	非常勤講師	合 計
東和大学	24	6		12	42
純真短大	24	2		20	46
健康科学研究所	7	1			8
埼玉純真	11	2		24	37
純真高校	44		7	13	64
合 計	110	11	7	69	197

事務職員数

（単位：人）

所 属	専任職員	嘱託職員	パートタイマー	非常勤職員	合 計
東和大学	10	2			12
純真短大	24		3		27
埼玉純真	12	1	1		14
純真高校	5				5
法人事務局	13		2		15
合 計	64	3	6		73

Ⅲ. 事業の概要

1. 東和大学

平成20年度末、目瀬学長の退任を受け、平成21年4月に学長選挙を行い、環境デザイン工学科教授若菜啓孝氏を学長候補者として選出いたしました。理事会の承認を受け平成21年4月22日東和大学第8代学長に就任いたしました。

新しい執行部体制の下、東和大学の再建に向けて主任会を中心に検討を重ね、教授会や理事会に対して様々な提案をしてみましたが、最終的には存続を断念せざるを得ない結果となりました。次年度以降の教員の処遇については、理事会とのあいだで話し合いを続けておりますが、東和大学としては、在籍している学生の最後の一人が卒業するまで責任を持って対応してまいります。

2. 純真短期大学

純真短期大学は、本年度、財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受け、「適格」認定結果をいただきました。この結果を踏まえて機関別評価結果を反映し、さらなる自己点検・評価活動を継続・強化させ、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明確化させました。

平成22年度の入学者数は117名、定員充足率は本年とほぼ同程度の65%と、不満足な結果にとどまりました。そこで、より多くの入学生を確保するために、今後、入試広報活動の戦略を抜本的に見直し、地域毎に教職員担当者(エリアアドバイザー)を決め、教職員一体となった学校訪問や、よりきめ細かな広報活動を展開するなど、入試広報活動を強化していく所存です。

建学の精神に基づく学生サポーター制度を実施し、学生たちは近隣4小学校で授業、遊び、試験採点などのボランティア活動を経験しました。またプラスバンド部が福岡市内の育園・幼稚園等で出前演奏を行い、地域貢献と本学の知名度アップに貢献してくれました。こうした活動をもとに、来年度は建学の精神を体現し、社会人基礎力を身に付けさせるための授業を開講したいと思えます。

教職員の自己研鑽のため、相互授業参観・評価、授業評価アンケートと授業改善、学生満足度調査と改善、FD講演会等によるFD活動を継続・強化しました。今後の任期制の導入を視野に入れ、本年度から新たに教員評価制度を試行し、教育・研究・学内外への貢献等、教員の活動業績を数値化することで、より総合的、客観的に評価できるようにした。

就職状況については、就職氷河期と言われる厳しい状況下にもかかわらず、平均で95.9パーセント(食物栄養学科90.6パーセント、こども学科100パーセント)という高い就職内定率を達成しました。これは、就職委員の先生方やキャリアセンターの職員を中心に就職活動の支援に取り組んできた結果であります。来年度以降も厳しい就職状況が続いてい

くものと思われませんが、更なるキャリア教育の充実を図り「就職の純真」と言われるように教職員が一丸となって就職支援に取り組んでまいります。

3. 埼玉純真短期大学

平成21年度の基本方針を「学園訓に基づいた教育を行うことができる“基本的な3つの要件（基盤）”を整える」といたしました。つまり、福田昌子女史が目指した「気品」・「知性」・「奉仕」に基づく「人間教育」を推進するためには、経営の基本でもある「人」「もの」「金」の3つの要件を整えていなければなりません。この「人」「もの」「金」は、それぞれに影響しあい、どのひとつを欠いても教育活動は不十分となります。本年度は、この中の最も基礎となり、重要な要件である「学ぶ人（新入生）」を質的・量的に十分な状態（定員）に近づけていく基礎を確実に作り上げることを基本目標といたしました。

また、教育方針（目標）も、本学の学園訓を踏まえた「人間教育」を主軸に据え、「高い知性と奉仕の精神に裏付けられた気品ある豊かな人間性を備えた人材」育成のために、「人間力養成の場」「学びを楽しむ場」「交流の場」を本学の特色として目指すことといたしました。そのためには「質の保証」が前提となります。そこで、まず本学の教職員自身が自らの質を高め、地域社会にその質を具体的な方法で発信するために、教職員一丸となって講演活動や学外講座などの積極的活動を行うことといたしました。

本学の質的保証を具体的に発信するために、次の項目を実施いたしました。

- ① 地域教育関係者による「埼玉純真短期大学外部評価委員会」の設置
- ② 短大基準協会による「第三者評価」の実施
- ③ 社会人学び直し講座を「羽生市」「行田市」「熊谷市」にて実施
- ④ 本学教員を要請のある「学校教員対象講習会」へ講師として派遣
- ⑤ 高等学校からの要請で「高校生対象模擬授業」の実施
- ⑥ 近隣教育機関からの要請による「出前授業」の実施

その他、学習環境をより良いものとするために、次の施設設備等の整備・改装を実施し学習環境の充実を図りました。

- ① 音楽室の電子ピアノの入れ替え
- ② 音楽室はじめ講義棟の廊下・天井・壁などの修理改装
- ③ カフェテリアのテーブルの一部入れ替え

学習環境整備については、平成22年度以降も継続して行うように計画しています。

以上の事項の実施により、入学者数は昨年度の81名から94名へと16%増となりました。ただし、入学者100名を見込んでいたため、いささか不満足ではありますが、来年度は25%増の120名を目指しての布石を打つことができました。これには、これまでの教職員の近隣高等学校を中心とした外部活動や”Junshin Newsletter”などによる保護者に対する正確な情報提供により、埼玉純真短期大学は質の高い教育を提供する安心で

きる大学との評価が生まれ、これまでの風評が払拭され始めたことが大きい根拠としてあげられます。

幸いにして、本学は少人数の教職員であるため比較的意思疎通ができており、教職員一人ひとりが「自分のため」というより「埼玉純真のため」という意識が強く、「心に裏付けられた行動」に結びついていると考えられます。このような諸条件を考え合わせると「教育基盤」の整備のためにも、来年度の入学者数が期待して待たれるところであります。

4. 純真高等学校

教育実績におきましては、本学園の厳しい状況下（平成 19 年）に本校入学を希望してくれた生徒諸君が、教職員の一丸となった指導の下、また生徒諸君の懸命なる努力の結果、進学において国公立大学をはじめ県内有名私立大学への合格など近年にない好結果を残すことができました。進学系コースのレベルアップへの取り組み、普通科の習熟度別授業が順調に成果を出して来ていると思われまます。また、進路保障が特に重視されました看護科・医療進学コースの生徒諸君につきましても、関係職員の進路開拓および正確な進路指導により全員が希望する大学・専門学校へと進むことができ、同コース初の卒業生を送り出すことができました。平成 22 年度より導入・実施されるファインシステム（模試結果分析）や CAT（職業観育成）により、更に充実した進路指導・生活指導が見込まれます。

内部諸活動への充実発展のため、運営委員会前の連絡会議を頻繁に行うとともに運営委員会自体の開催も頻度を高め、内容を精査し、職員への連絡や確認事項において意思の疎通のなきよう努めています。また、教職員の研修の機会を増やすべく、文部科学省や県の案内のみならず業者主催の諸研修など、参考となるものは紹介をして、積極的な参加を呼びかけています。

広報におきましては、平成 21 年度に募集再開が認可されました看護科・看護 5 年一貫コースにて、教職員の真摯な広報活動により、受験者数・入学手続き者数（入学者）は定員を充足するに至り順調な再スタートが切れました。逆に普通科は生徒減となり担当職員のみならず全職員が募集活動の新展開を模索しているところですが、今後とも入学定員の充足を目指し最善を尽くす所存です。

保護者会とは順調かつ良好な関係を継続しており、交流会、文化祭、体育祭、ラブアース活動、その他部活動への活動援助などをいただき感謝しています。我々教職員もその思いに応えるべく、真摯に教育活動に取り組みねばと改めて感ずる次第です。

部活動は、特待生を獲得し、強化している部のみならず、それ以外の部活動においても、顧問の先生方の熱い思いが徐々に浸透してきています。各部が、成績だけではなく学校の活動のひとつとして、生徒諸君が積極的に部活動に取り組み始めていると感じています。

国際交流プログラムの平成 21 年度は、アフリカ青年教師の皆さんの学校視察、ASEAN 留学生の訪問がありました。いづれも好評にて平成 22 年度も ASEAN、中国、韓国、日本

語サミットの留学生を受け入れていく予定です。生徒諸君はもちろん、教職員・学校の活性化へと繋げ、海外の高等学校との提携を視野に入れ推進してまいります。

このように、純真高校は厳しい状況を克服しつつ、復興への確かな歩みを進めています。

5. 純真中学校

平成20年度を以って在校生全員卒業いたしました。当面は、休学となる予定であります。

6. 法人事務局

純真学園の再建については、学内での協議はもちろんのこと文部科学省へも幾度となく相談をしてまいりましたが、最終的には東和大学の廃校と新しい大学の設置という形で学園の再建に向けて取り組んでいくことが確認されました。これを受けて、新大学設置認可申請作業を本格化させ、新しい教員の採用や申請書類の作成など、大学設置準備室を中心に実施してまいりました。申請書類の提出期限である今年度末、文部科学省へ申請書類を提出し、受理していただくことができました。

今年度文部科学省に提出した新大学の概要については下記のとおりであります。

大学名等： 純真学園大学 保健医療学部
看護学科・放射線技術科学科・検査科学科・医療工科学科

学長名： 福田庸之助（学校法人純真学園理事長）

入学定員および収容定員：

	入学定員	収容定員
看護学科	80名	320名
放射線技術科学科	60名	240名
検査科学科	60名	240名
医療工科学科	40名	160名
保健医療学部合計	240名	960名

以上